



普及だより たむら

No. 222

2020.1

編集・発行

福島県県中農林事務所田村農業普及所

田村郡三春町大字熊耳字下荒井176-5

TEL (0247) 62-3113(代)

FAX (0247) 62-6069

ホームページ

田村農業普及所

検索

ごあいさつ (田村農業普及所長 菅野 雅敏)

「謹賀新年」令和2年も、皆様の“幸”多かりし、一年となることを祈念します。

令和元年の営農は、気象に大きく影響を受けた年となりました。高温乾燥や日照不足、そして相次ぐ台風と、気苦労の多い年となりました。現在、皆様方も、昨年の営農実績を踏まえ、今年の農業経営をどのようにしていくか、考慮中のことと思います。

そのため、これからの営農に役立つ参考情報として、「普及だより たむら 222号」をお届けします。今後とも、関係市町・JA等と連携し、皆様のさらなる所得向上に向け、農業経営をサポートして参りますので、よろしくお願ひします。

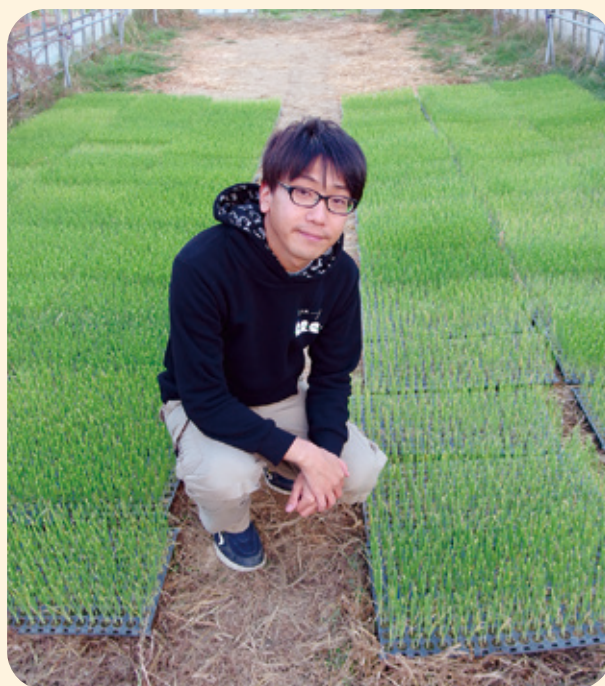
新規就農者紹介シリーズ ～5組目～

◆三春町貝山 (有) M&Aふぁーむ・わたなべ 渡邊厚史さん

渡邊さんは、東京都でお勤めされていましたが、自分の意見が反映できる仕事をやりたいと思い、ご家族が経営される農業生産法人に今年就農されました。法人の主要品目である「ねぎ」や「しいたけ」の管理作業を始め、事務作業など幅広い業務を通して、法人の農業経営を支えています。

渡邊さんは、多岐にわたる法人の作業をすべて理解し、できるようになりたいと取り組んでおり、また、就農前に習得したノウハウを活かして、感覚的に経営されてきた部分のマニュアル化やパソコンによる経営管理など経営のスマート化により、法人のさらなる発展を目指しています。

写真：渡邊厚史さん



たむらで就農しませんか？

田村地域では、平成28年度に新規就農者等のサポート体制を整備し、市町・JA・普及所が中心となって、関係機関・団体が密に連携し、就農希望者への支援を行っています。

サポート体制としては、栽培技術の支援をはじめ、営農計画作成への助言や資金・補助事業の活用、農地・住居の確保支援など1人1人の状況に応じ、就農までのサポートを行っています。

今後も引き続き、新規就農希望者の相談・支援を行って参りますので、就農を希望している方や定年退職を機に農業を始めたい方はもちろん、農業に興味のある方は、気軽にご相談ください。

「里山のつぶ」が10aあたり700kg収穫できました！

田村地域の平成30年産「里山のつぶ」の平均収量は、492kg/10aでした。この実績により、普及所では、基肥が窒素成分で6kgと8kgの区を設定した栽培実証試験を行いました（追肥はN成分で2kg）。その結果、8kg区では、700kg/10aを収穫することができました。

試験区を管理した農業者は、「ひとめぼれは少し倒れ、収量は570kg/10aだった。里山のつぶは全く倒れない。新米を食べたが、味も良かった。品質判定もSランク。来年は、全て里山のつぶへ切り替えたい。JA稲作部会員ではないので、JA主催の食味コンクールに出品できないのが残念だよ。」と満足そうに話していました。まだ栽培したことがない方、スーパーや直売所で見かけた方は、ぜひお試しください！



写真 現地指導会の様子



写真 店頭で販売されている里山のつぶ

「株式会社希望ファーム」が、第三者認証GAPを取得しました！

農地所有適格法人「希望ファーム」が、8月19日付で、三春町で栽培しているレタス、サニーレタス、リーフレタスの3品目にて、JGAP認証を取得し、10月9日に、三春町役場において、町長へJGAP取得や取組の経緯について報告しました。

「希望ファーム」は、出荷先よりJGAP取得を求められたことがきっかけとなり、平成31年2月より、取得活動を始めました。普及所では、2月にJGAP取得に向けたスケジュールや方向性について説明し、3月以降、ほ場及び倉庫の整理整頓、帳票類の作成、自己点検等を支援しました。

代表取締役の白石拓麻社長は、「三春町をレタスの産地にしたい。JGAP実践を通じて、経営の合理化を図りたい。」と意気込んでおり、普及所でもJGAPの維持・更新に向けた支援を行っていきます。



写真 三春町長への報告会（左、白石社長は左から2番目）ときれいに整頓された資材ハウス（右）



三春町の「(株)OFs-Link」

第60回 福島県農業賞・特別功労賞を受賞しました！

第60回記念・特別功労賞を受賞した三春町の「(株)OFs-Link」は、キュウリを主力にトマト、メロンに加え、露地野菜を周年で栽培し、JA、地元市場、スーパーのほか、独自に首都圏への販路拡大を図っています。

キュウリにおけるソーラー自動かん水システムの導入や高糖度トマト栽培など、新たな栽培技術にも積極的に取り組み、品質・収量の向上に努めるとともに、田村地域では初めてとなるJGAP認証を取得し、農産物の安全性保持、労働者の安全確保等に努めており、消費者からの信頼を得ています。



写真 表彰式で知事と記念撮影

鳥獣被害対策モデル集落の取組について

有害鳥獣による農作物の被害を防止するためには、総合的な対策が必要です。



写真 モデル集落の研修会の様子

県では、モデル集落を設置し、総合的な対策の取組が行われるよう重点的に支援しており、田村地域では、小野町湯沢集落、田村市都路町合子集落の2カ所をモデル集落として支援しています。

各集落で、鳥獣被害対策研修会を開催し、その中で対策の方法や電気柵等の防護柵を用いる際の注意点等について説明しました。さらに、集落環境診断を実施し、集落の各ほ場周辺の鳥獣害に関する課題について、集落の方々に把握していただきました。

今後も、他集落に波及できるようにモデル的な対策を支援していきたいと思っております。

集 落 営 農 に つ い て

「集落営農」とは、高齢者や女性、兼業農家、担い手など集落の皆が、安心して暮らしていける農業や農村の仕組みを築き上げていくことです。

田村地域では、法人組織が担い手となって営農に取り組んでいる地区が4地区、持続可能な営農のため、現在ほ場整備事業に取り組んでいる地区が9地区あります。また、ほ場整備事業にむけ、住民勉強会を開催する動きが数地区で見られるなど、近年深刻化を増す高齢化や担い手不足を解決すべく、新たな取組を始める地区が増えています。

普及所では、既に集落営農やほ場整備事業に取り組んでいる地区への支援の他、これから話し合いを始めていきたい地区に対しても、住民アンケート調査や「話し合い」の実施、人・農地プランの作成等の支援をしています。

興味のある方は、お気軽にご相談ください。

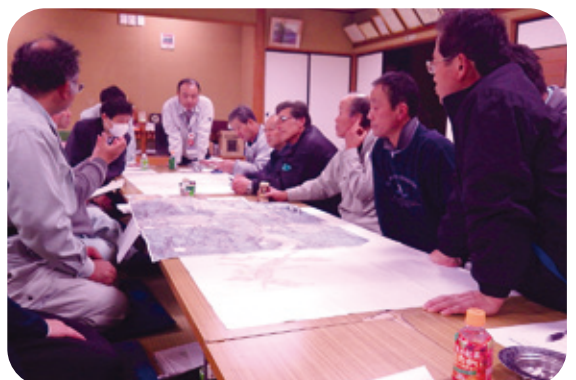


写真 集落の地図を前に話し合い

各専門技術担当から

作物

昨年は、春先の水不足に始まり、7月の曇天・低温、8月の高温など、天候に合わせた管理が難しい一年でした。特に病害虫の発生が多く見られました。

その中でも、イネドロオイムシの発生が多かったほ場では、今年は、箱処理剤の変更を検討しましょう。さらに、紋枯病の発生も増加傾向にあります。紋枯病は、主に茎に病斑ができ、下葉から上へ枯れていきます。昨年の収穫時に、葉の枯れ上がりが多く見られたほ場では、今年も発生が懸念されますので、出穂前に薬剤を散布しましょう。

今年も稲作情報（JAの広報誌とともに配布）により、皆様にタイムリーな情報を提供して参りますので、ご覧ください。



畜産（飼料作物）

昨年より田村地域では、作業分散・収量確保を目的とし、稲WCSの専用品種（早生1品種、極晩生2品種）を導入しました。農業者からは、一昨年と比べ、刈取適期の作業が可能になったことや生育が良いとの声がありました。また、極晩生品種「たちすずか」は台風19号の豪雨でも倒れず、高い耐倒伏性を発揮しました。今年も、昨年の収量や生育状況のデータを基に、専用品種の栽培を推進しますので、稲WCS専用品種の導入の際は、当普及所までお問い合わせください。

野菜

昨年は、春先の高温・乾燥、6月～7月の長雨・日照不足により、夏秋野菜の初期生育や収量に影響があり、8月以降は天候の回復により、収量は増加しました。一方で、高温の影響から、ピーマン・トマトでは、尻腐れ果の発生が多くみられました。今年もかん水やカルシウム施用などの高温対策に留意してください。また、高温・乾燥時には、ソーラーパネルで発電し、自動でかん水を行うソーラー自動かん水システムが有効です。システムを導入することで、かん水だけでなく、同時に追肥も行うことができ、作業の省力化が図られます。システムの導入を検討している方は、普及所までお問い合わせください。



果樹

昨年は、6～7月の長雨により、各樹種で病害が発生しやすい状況となりました。田村地域では、リンゴの褐斑病の被害が目立っており、落葉している樹も散見されています。

本病原菌は、主に罹病落葉で越冬するため、発生したほ場では落葉をほ場外に持ち出し、深く埋めるなど、適切に処分し、本病の発生を抑えるよう心掛けてください。

また、8月以降の高温乾燥によって、ハダニ類の発生も見られ、多発ほ場では、今年の発生を抑えるために、発芽一週間前（3月下旬）の薬剤防除がとても重要となりますので、必ず実施しましょう。

自然災害対策について

昨年10月に発生した台風19号により田村地域でも農作物や農地で大きな被害を受けました。被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。今年も台風等、自然災害による被害の発生が懸念されるため、早めに台風情報を入手し、農作物に対する、早めの事前・事後対策を心掛けましょう。

田村農業普及所のホームページでは、台風をはじめ、災害に関する最新の技術情報を更新していきますので、ホームページをご覧ください。

県中農林事務所田村農業普及所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36221a/>